

# 主体的・対話的で深い学びにつながるメディア教育

上山市立中川小学校 川瀬 克仁

## 1 はじめに

本校は上山市郊外にある全校児童87名の小規模校である。

上山市では、平成30年度に市内全小中学校に校内無線 LAN に接続されたタブレット端末【児童用（4人で1台）計6台】と2in1PC端末【教師用1台】が整備された。さらに、令和元年度より電子黒板【（各階1台ずつ）計2台】とタブレット端末【児童用】3台を導入した。また、ICT支援員（株式会社 WILL）にも月2回程度来校して頂き、ICTを活用した授業づくりやプログラミング教育、職員への研修等の支援を受けている。

本校は、上山市のICT教育推進校として上記のような環境でICTを活用した授業づくりに取り組んでいる。

## 2 研究の概要

本校では、すべての学級に実物投影機と大型テレビが常設しており、各階にある電子黒板と、職員室に保管してある児童用タブレット端末9台は学年間で相談して使うことにしている。また、タブレット端末には Sky 株式会社の学習活動ソフトウェア「SKYMENU Class」とジャストシステム社の授業支援ソフト「ジャストスマイル」が入っている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で部会として研究をすることができなかった。そのため、本校でのICT機器を活用した日常的な授業実践を中心に記述する。

## 3 研究の方法

本校では、ICT教育を推進するために以下のことを行っている。

### ①情報教育年間指導計画に基づいた授業実践

今年度より作成し、「基本的な情報機器の操作」や「適切な情報活用の学習活動」について1～6年生まで系統性を持って学習できるようにしている。教科学習での活用やプログラミング教育の内容を明記することで、計画的にICT支援員からの支援を受けることができるようにしている。

### ②実践的な職員研修

タブレット端末や電子黒板、授業支援ソフトの活用方法について、年間3回程度行っている。昨年度は、「SKYMENU Classの活用方法について」「電子黒板の活用方法について」「校務支援ソフトの活用方法について」の内容で研修を実施した。今年度は、感染症による臨時休校に備えて「zoomを使ったオンライン授業について」の研修会を行った。講師としてICT支援員の方に入って頂くことで、実践的な研修になり職員にとっても大変有意義な研修になった。

### ③ICT活用の日常化を図るための情報交換

職員室内でも日常的に機器の操作や活用方法について話すことで、ICT機器の操作が得意でない教員も挑戦してみようと思える雰囲気づくりに努めている。それによって、昨年度までの使える人だけが使う状況が大きく改善し、どの学年でも電子黒板、タブレット端末が使用されるようになった。特に、2台の電子黒板はほぼ毎時間いずれかの学年で活用されるようになっている。また、実践内容（使用したファイルや動画など）を共有フォルダに蓄積することで、効果的だった実践を他学年でも活用できるようにしている。

### 3 実践

#### (1) これまでの実践から

<成果>○ICT 機器をどの教科でも積極的に使用することで、ICT の日常化を図った。

○2人で1台を使用することで、どの子も基本的な機器の操作を身に付けることができた。

<課題>●ICT 機器を使った作業時間が多くなってしまい、教科のねらいから外れることがあった。

●キーボードがないため、文字入力をするのに時間がかかってしまうことが多かった。

#### (2) 今年度の実践：昨年度の課題を踏まえ、ICT を活用する場面を精選し授業を行った。

単元名 : Let's go to Italy. (第6学年、外国語科)

目標 : 外国の文化に関心を持ち、お気に入りの世界遺産について、主体的に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりしている。

ICT 活用：情報の共有（電子黒板での資料の提示①NHK for School えいごリアン「この世界いさん知ってる？」②発表ノートスライド、SKYMENU Class「発表ノート」での児童用タブレット端末への資料配付）

情報の伝達（タブレット端末、電子黒板を使用して、グループや全体への発表）

指導課程：

| 時間        | ○ 主な学習活動  | ・指導上の留意点 ☆評価  |
|-----------|---|---|
| 導入<br>10分 | ○「Let's Sing」「Let's Chant」の歌に合わせて前時までの学習内容を復習する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板（デジタル教科書）を使用して、リズムに合わせてくり返し歌う。</li> <li>世界遺産を見た後に、どこの国かを予想させる。</li> <li>前時に調べた世界遺産からピックアップしたものを、「発表ノート」で紹介する。</li> </ul>   |
| 展開<br>25分 | ○NHK for School「えいごリアン」を視聴し、世界遺産について関心を持たせる。<br>○7つの世界遺産について説明を聞く。<br>○本時のめあてを確認する。   |   |
|           | お気に入りの世界遺産を紹介しよう。   |   |
| 終末<br>10分 | ○本時で使う基本表現を確認する。<br>Do you like traveling?<br>I like (国名) .<br>I want to visit (世界遺産) .<br>It's (様子) .<br>○資料をもとに、お気に入りの世界遺産を選び、その理由と英語での表現を考える。<br>○グループの中で自分の考えを伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>単語の意味を「Picture Dictionary」やノートを使って確認する。</li> <li>ペアでタブレット端末（発表ノート）を使用して、資料スライドを閲覧できるようにする。</li> <li>単語の意味や、英語の読み方がわからない児童には随時支援する。</li> <li>相手に伝わるように、タブレット端末で資料を示しながら発表する。</li> </ul> |
|           | ○電子黒板を使用して、全体に向かって自分の考えを発表する。<br>○振り返りをノートに書く。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>☆外国の文化に関心を持ち、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。（観察、ふり返り）</li> <li>わかったこと、できるようになったこと、楽しかったことをノートに書く。</li> </ul>  |

ICT 活用場面での児童の反応：

<情報の共有について>

配付された資料をもとに、自分の感想を伝えたり、友達の感想を聞いたりしながら、意欲的に気に入りの世界遺産を選ぶうとする姿が見られた。英語での表現がわからない単語があったときに、インターネットを使って単語の意味と音声を調べることで自力解決している児童がおり驚かされた。



<情報の伝達について>



電子黒板を使って資料を提示すると、全員の意識が集まるのがよくわかる。特に外国語では、音声教材もあることで、聴覚に加えて視覚情報が入る効果は非常に大きいと感じる。本時で扱った資料も、世界遺産の美しさや迫力がよく伝わっていたように思う。ふり返りの中にも、「写真を観ながらだったから、友達が気に入った理由がわかりやすかった。」のような画像がわかりやすさにつながったという内容が複数あった。

#### 4 成果と課題

<成果>

本時の課題に対して、主体的に取り組む姿が見られた。その理由は、「自分たちで調べた内容」が授業の資料として提示されたからだと感じた。魅力的な資料を簡単に提示できることは、ICT 活用の大きなメリットだと実感することができた。

普段から ICT 機器を積極的に活用することで、子どもたちはどんどん使いこなしていく。本時での「インターネットで単語を調べる」姿は、まさにこれまでの学習で身に付けた情報収集能力を子ども自身が応用した姿だったと思う。

<課題>

ICT 活用と教科のねらいのバランスはやはり難しいと感じた。本時の実践では、児童が ICT を使う場面をかなり限定した。授業の構想段階では、教師が提示した世界遺産を自分でより詳しく調べたり、書きこみ型のスライドを配付、回収して電子黒板に一斉に提示したりすることも考えた。しかし、2人で1台のタブレットを使用することや、外国語科としての教科のねらいを考えると難しいと判断し本時の活動にした。これからも、ICT 活用の目的の明確化と活動内容の精選はよく考えなければならないと思った。

#### 5 まとめ

GIGA スクール構想の前倒しによって、上山市内の小中学校にも今年度中に一人一台のタブレット PC が整備されることになった。それによって、できることは確実に増える。しかし、一人一台のタブレット端末が整備されたからといって急に情報活用能力が向上するわけではない。子どもたちに力をつけるために、どのような活用方法が効果的なのか、これからも私たち教師は考えていかなければならない。使うことで失敗することもあると思うが、それを恐れて使わないのでは整備されても意味がない。まずは使ってみる。その上で上手くいったこと、いかなかったことを職員同士で共有することで、主体的・対話的で深い学びにつながるメディア教育を考えていきたい。